



## Vol.83

弁護士 向井 蘭  
狩野・岡・向井法律事務所

### ★中国人は人を追い込み過ぎない

「中国人做事不会做绝」

「中国人は人を追い込みすぎない」という意味の言葉です。ことわざまではいきませんが、たまに使われる言葉です。

中国で人を追い込みすぎると、何が起きるか分からないので、お互い相手を追い込むことはしないものだという意味です。

全ての場合に当てはまりませんが、中国では、意外と(?)話し合いの席では、お互い相当気を使って交渉します。言いづらい内容については、遠回しに物事を伝える場合も多いです。人を追い込みすぎて完全に面子を潰すと一生恨みを持たれ、何が起きるか分からないからです。

日系企業で起きるストライキも様々な種類があるのですが、知らず知らずのうちに日本人上司が中国人部下の面子を潰していたことが遠因の場合もあります。

退職勧奨の場合でも同じです。中国では、退職勧奨をする側は、極力柔らかい言葉で、相当回りくどく説明して自発的な退職を促しています。場合によっては、退職勧奨の面談で労働者を褒める場合もあります。こじれた時は徹底的に闘わざるをえない場合が多いですが、こじれるまでは相当神経を使って交渉をします。

その点、日本の場合はどうでしょうか?

弊事務所の案件は、労働組合問題に限らず、解雇問題、残業問題でも深刻な案件が多く、労働者の方が人生を賭けて戦っているような案件もあります。法律上は雇用契約上の地位確認

とか未払賃金が請求の内容となりますが、実際は恨み・憎しみに対していかに対応するかが問題となります。原因は様々で一概には言えないのですが、会社に悪気が無く、いつの間にか追い込んではいけない人を知らず知らずのうちに追い込んでいる場合もあります。

日本の場合は、中国と異なり、あまり怒鳴り合いの喧嘩や口論は日常で目にしません。訴訟も日常的に起こるものではありません。根に持たれて深刻な労働問題に発展するというイメージが湧きません。平和で穏やかな社会のせいなのか、人の恨み・憎しみに鈍感なような気がします。そのため、悪気なく、あまり配慮せずに残酷な事を言ったり、残酷な行為を行なっている場合が多いのです。

これから少子高齢化は進み、否応なく日本経済は縮小していきます。雇用の機会も全体の数量は確実に減っていきます。社会的・経済的に追い込まれる労働者の方が確実に増えていきます。

今後、雇用を減らす、賃金を減らす機会があるかもしれませんが、その際は、相手の立場に立って恨み・憎しみがなるべく発生しないように(どうしても発生する場合があります)考えて行動する必要があります。

お気軽にご相談下さい (10:00~17:00)

狩野・岡・向井法律事務所

TEL 03-3288-4981 / FAX 03-3288-4982